

Title	ホテル業のビジネス・ゲーム - システム開発と教育研修への適用 -
Sub Title	
Author	山田邦夫 柳原一夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1989
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1989年度経営学 第727号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001989-0727

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	山 田 邦 夫	主査	柳 原 一 夫
	(ロート製薬株式会社)	副査	柴 田 典 男
所属ゼミナール	柳 原 一 夫 研		青 井 倫 一

ホテル業のビジネスゲーム — システム開発と教育研修への適用 —

本研究は、実務教育の一手段として実際に貢献できるビジネス・ゲームを新規に開発することを第一の目的とし、教育研修プログラムでの実施を通じて、ゲームの経験がどのようなインパクトを現場のプロフェッショナルである実務者に及ぼすことが出来るか、どのような可能性が将来的に期待できるかということについて考察しようとするものである。この研究は、ホテルのジェネラル・マネージャー（総支配人）候補者を対象とするあるセミナーに参加する形で行われた。開発の前段階では、日本のホテル業を取り巻く環境分析やホテル経営の現状分析が行われ、ゲームの基本モデル構想時には、3学期の専門科目履修者によるブレインストーミングも行なわれた。本論文はこうしたプロジェクトを集大成する形でまとめたものである。

本ゲームの特色は、オペレーションが中心でありながら、同じクラスのホテルによる厳しい競争を乗り越えるために、的確な市場分析と長期的な戦略が要求されるという点である。またそうした作業の基となる自社の状況、市場環境などについての情報を豊富に提供することにより、参加者の情報取得意欲を高め、情報処理システムとしての組織設計を促進させる事を狙っている。本論文ではシステム開発の経緯、ゲームの概要、研修への適応結果を述べた後、上記のような問題点に対する筆者の見解として、「情報システムとしてみた経営モデル」を提唱した。これは具体的な情報分析作業や意思決定を行う以前の段階として、どのようなフレームワークで物事を見るかという事が、単なる手段でなく結論を左右する重大な選択である事を示している。このように情報の流れとして経営システムを設計することが、より豊かな可能性を持った戦略を創出するうえで有効であるというのが筆者の結論である。